

シアトル小児病院での研修体験記

外来看護師 東 絵理

<はじめに>

姉妹提携したシアトル小児病院への長期研修は今回よりスタートしたものである。看護師は2名一緒に研修を受け、3週間の研修中、シアトル小児病院で可能な限り多くの職種や看護スタッフと会い、それぞれがどのように小児病院へ来られるご家族と患者様をサポートしているかを知る事に重点を置いた。我々が出会い、話を伺う事ができた職員と部署は以下の通りである。

講義や見学でお世話になった職員の皆様

- ・看護部長
- ・看護実践部長
- ・感染管理マネージャー
- ・ビジネスサービス部長
- ・安全システム部長
- ・専門看護師（CNS）
- ・呼吸器ケアコーディネーター
- ・チャイルドライフスペシャリスト
- ・地域への教育担当マネージャー
- ・副院長
- ・ナースプラクティショナー
- ・ゲストサービスと国際交流担当者
- ・薬剤師
- ・放射線科医
- ・マクドナルドハウスマネージャー
- ・検査技師
- ・ファミリー・リソース・コーディネーター

見学をさせていただいた部署や施設

- ・外科病棟
- ・内科病棟（呼吸管理）
- ・ハートセンター
- ・手術室／リカバリー室
- ・放射線科部門/ PACU
- ・救急外来（ED）
- ・外来診察中の兄弟を預かるプレイルーム
- ・血液／腫瘍科外来
- ・血液腫瘍科病棟（SCCA）
- ・ファミリー・リソース・センター
- ・マクドナルドハウス
- ・PICU／NICU／CICU
- ・呼吸器外来

<シアトル小児病院と当院との職種と職員の比較>

病棟の種類や、病床数については兵庫県立こども病院と大きな差がないように感じたが、上記の表からもわかるように、職員数だけではなく、職種も多岐にわたり、多い。例えばソーシャルワーカー、チャイルド・ライフ・スペシャリスト等が部署や疾患別に担当者が決まっており、その分スタッフ数が多い。

<シアトル小児病院での看護師の役割>

他職種だけではなく、看護職の種類と人数は当院に比べると多い。以下は看護職の役割の一部を示した。

CNS：患者様の日々の受け持ちは行わず、病棟全体の指導やマネージメントを行っている。各病棟に最低1人はいる。

ARNP（ナースプラクティショナー）：大きな特徴としては看護職として処方権や治療方針の決定権（一部）がある点である。特殊な検査を行う事もできる。医師ではなく、ARNPの診察だけを受ける患者様も多い。疾患別にいる。

RN（正看護師）：それぞれの専門領域を持っている人が多い。本人の希望がない限り部署の異動はない。救急外来・循環器センターでは看護師がトリアージや受け入れ要請の電話対応をしている。

その他：看護師免許を持った上で、感染管理室マネージャー・保険会社との交渉担当・心疾患のデータベース管理等経験を活かして全く別の仕事をしている人もいる。

<充実したスタッフを支える資金と地域からのサポート>

このような充実したスタッフと施設を支える資金は、高額な医療費と募金・寄付がなければ実現できない。アメリカの成人病院とは違い、シアトル小児病院では、加入している保険内容や収入に関わらず、全ての患者様に最良の治療とサポートをするという事を独自で取り決めている。大企業や資産家からの寄付は多く、病院内にも募金を集めるギルドという団体が多数存在する。



地域からのサポートとしてボランティアは1000人いる。病棟でご家族が側にいる事ができない患者様の遊び相手（1患者様に対して1人）、物品の補充、運搬、清掃など内容は様々である。このようなボランティアの存在で、医療者はそれぞれの専門的職務に専念する事ができるように感じた。

〈ご家族と患者様へのサポートの数々〉

シアトル小児病院で特に印象に残ったのは、患者様本人だけではなく、ご家族も一緒にサポートするという思いが職員の間で非常に強いというものである。治療を受けている子供達にとって、家族が重要な存在であるという意識が高いからであると感じた。

患者様とご家族へのサポートについて幾つか紹介したいと思う。

ファミリー・リソース・センター

入院・外来のご家族が自由に使用できる場所であり、疾患等について図書やインターネットで調べる事ができる。ファミリー・リソース・コーディネーターが常駐していて、疾患についての調べ方等の情報提供を行っている。ご家族専用の休息スペースがあり、入院している患者様から離れて休む事ができる。



ロナルド・マクドナルド・ハウス

シアトル小児病院に隣接しており、入院・外来のご家族・患者様が宿泊できる施設。約80家族が宿泊できる。食糧・備品等は全てボランティアで集められており、自由に使用できる。食事を作ったり、清掃を手伝ったり、映画館（寄付で設立）の上映などボランティア活動により支えられている。



遊びの大切さ

病院という普段とは違う環境を少しでも忘れる事ができるように、遊びを大切にしている。入院患者様が外の空気に触れ、遊ぶ事ができる専用スペースがある。ご家族がいなくても、ボランティアが大きなプレイルームと一緒に遊び、遊ぶ事ができる。

そして、治療にも遊びを取り入れている。患者様が内服や痛みを伴う処置を、ゲームとして行ったり、疾患が理解できるように遊びの要素を取り入れたりしている。この役割を担っているのはチャイルド・ライフ・スペシャリストという専門家であり、各病棟や部署に一人ずついる。

<おわりに：シアトル小児病院での研修を終えて>

3週間という貴重な時間をいただき、シアトルでの小児医療の現状を自分の目で見て、感じる事ができた。

嬉しかった点は、当院にしてもシアトル小児病院でも、大切にしている事は同じであるという事を知る事ができた点である。

資金面、設備面等で大きな差があり、この度シアトルで行っている事をすぐに取り入れる事ができないにしろ、その一部だけでも当院でも取り入れる事ができるものも多くあった。

シアトル小児病院でも長い年月をかけて、現在の充実したサポート体制を築く事ができたと色々なスタッフから話を聞いた。

当院でもよりご家族と患者様をサポートする事ができるケアを提供できるように私自身がもっと努力する必要があると感じた。

このような貴重な機会を与えてくださった全ての方々、出発までの準備にご協力していただいたの方々、そしてシアトルでお世話になった全ての方々に感謝します。